

「確かな学力」を育てる学習活動の研究

～「学級力」を高め、主体的・対話的で深い学びをつくり出す学習活動の工夫～

I 研究の内容

1 研究の目標

- ・学級活動の時間を中心に、「学級力」を高める工夫を行うことにより、子どもたちにとって居心地のよい、安心して学習に取り組める学級集団、主体的に課題解決に向かう学級集団を築いていく。
- ・各教科、領域において、「主体的・対話的で深い学び」をつくり出す学習活動を工夫することにより、子どもたちに学びの実感や学ぶ喜びをもたせていく。

2 研究の具体的内容

(1) 「学級力」を高めるために

- ①学級力アンケートの実施とスマイル・アクションの取り組み
→子どもたちが自分たちでクラスをよくしていこうとする主体性を育てる。
- ②学級力ミーティング
→各学級の取り組みを交流し学び合う。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」をつくり出すために

- ①主体的な学びをつくり出す単元や題材の構成。
- ②主体的に考えたいと思う学習課題の設定と提示の工夫、振り返りの定着。
- ③ペア学習、グループ学習等を積極的に取り入れ、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしながら学習を進める場面の設定。
- ④子どもに付けたい力は何かを考え、どのような目標を設定するのか。
- ⑤設定した目標に対する振り返りの評価。(学習感想)
- ⑥評価方法(ノートや成果物など)

3 研究方法

(1) 理論研究や実践研究

「主体的・対話的で深い学びの実現について」

講師：山梨県総合教育センター 小尾 俊彦 主幹・指導主事
峡東教育事務所 三森 公仁 指導主事

(2) 授業研究(2回の研究成果実証授業を実施する)

第4学年 算数科「計算のやくそくを調べよう」	志村 勇佑 教諭
指導助言：山梨県教育委員会義務教育課	富士池 慎一 主査・指導主事
第1学年 国語科「じどう車くらべ」	飯島 恵 教諭
指導助言：山梨県教育委員会義務教育課	小林 知子 主査・指導主事
峡東教育事務所	三森 公仁 指導主事

(3) 一人一実践の公開授業

主体的・対話的で深い学びをつくり出す学習活動の工夫を取り入れた実践

(4) 特別支援教育の学習会

講師：山梨市ことばと発達の通級指導教室主任 丹澤 智恵利 教諭

「通級による指導」と「ユニバーサルデザイン」について

「山梨市ことばと発達の通級指導教室」の教室運営

II 成果と課題

1 成果

- ・新しい指導要領のキーワードである主体的・対話的で深い学びについて、理論研究と具体的な授業実践の中で、理解を深めることができた。
- ・一人一実践や学級力の取り組みの意見交換や授業参観を行うことで、他のクラスのすぐれた実践を知ることができ、自分の指導にも生かすことできた。
- ・年々、学級力の取り組みが多様化してきている。クラスの実態に応じ、また、子どもたちのアイデアを生かした様々な取り組みが生まれ、広がっている。
- ・「確かな学力」を育てる手だてとして「学級力」と「主体的・対話的で深い学び」の両面からアプローチをしたことは効果的であった。
- ・授業の始めにはめあてを提示したり、授業の終わりには学習の振り返りをしたりと、「やまなしスタンダード」に基づいて授業を組み立てることで、子どもたちの確かな学力の育成につながっていた。
- ・各ブロック1本の授業研究は、ブロックごとにじっくりと検討することができ、有効だった。せっかく全体で研究をするので、普段できないようなことをあえて取り組む・挑戦することで、それぞれの先生の指導方法に幅が広がった。また、それだけ深く研究するので、その領域・単元に関して研究が深まった。

2 課題

- ・深い学びをどのように子どもたちにさせていくのか等、まだ整理しきれていない方法論や考え方をさらに深めていけるとよい。
- ・学級力の取り組みが、学級ごとにしっかりとできるようになってきたので、学年でも共通理解を図り取り組んでいくことで、より学校がよくなっていく。
- ・各教科における主体的・対話的で深い学びの研究を目指したが、算数や国語しか研究ができなかった。理科や社会など他にも教科・領域はあるので、もう少し幅を広げるか、逆に教科・領域を絞ってしまうかを検討していく必要がある。
- ・「確かな学力」には基礎・基本と、活用の両面があるが、もう少し基礎・基本の面にも視点が向けられると更に良かった。

II 成果物

1 研究授業指導案及び資料

2 授業実践指導案

(研究主任 橋本 尚一)